

能美防災は、街を、人を、かけがえのないものを、
火災から守り続けています。



2019年度 決算説明資料

(2020年3月期)

2020年5月26日

能美防災株式会社

NOHMI

I . 2020年3月期 連結決算概要



過去最高の連結業績を達成

受注高・売上高は1,100億円、営業利益・経常利益は150億円、親会社株主に帰属する当期純利益は100億円を初めて超えた

売上・利益とも期初予想を超過

売上高は順調に推移

利益面では比較的採算性の良い物件が集中

新型コロナウイルスの影響は今後懸念される

2020年3月期における影響は軽微

感染拡大防止のため従業員の在宅勤務などを推進

2020年3月期 連結業績

(百万円)

	2019/3	2020/3		前期比		計画比	
	実績	計画	実績	増減額	増減率	増減額	増減率
受注高	107,860	116,000	111,872	+4,011	+3.7%	△4,127	△3.6%
売上高	106,774	114,000	117,294	+10,519	+9.9%	+3,294	+2.9%
売上原価率	67.4%	68.2%	66.5%	△0.9pt	—	△1.7pt	—
売上総利益	34,847	36,200	39,305	+4,457	+12.8%	+3,105	+8.6%
販管費	23,480	24,200	24,165	+685	+2.9%	△34	△0.1%
営業利益	11,366	12,000	15,139	+3,772	+33.2%	+3,139	+26.2%
売上高営業利益率	10.6%	10.5%	12.9%	+2.3pt	—	+2.4pt	—
経常利益	11,644	12,200	15,448	+3,803	+32.7%	+3,248	+26.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,804	8,000	10,516	+2,712	+34.8%	+2,516	+31.5%
EPS (円)	129.42	132.67	174.41				
ROE	9.2%	9.1%	11.4%				

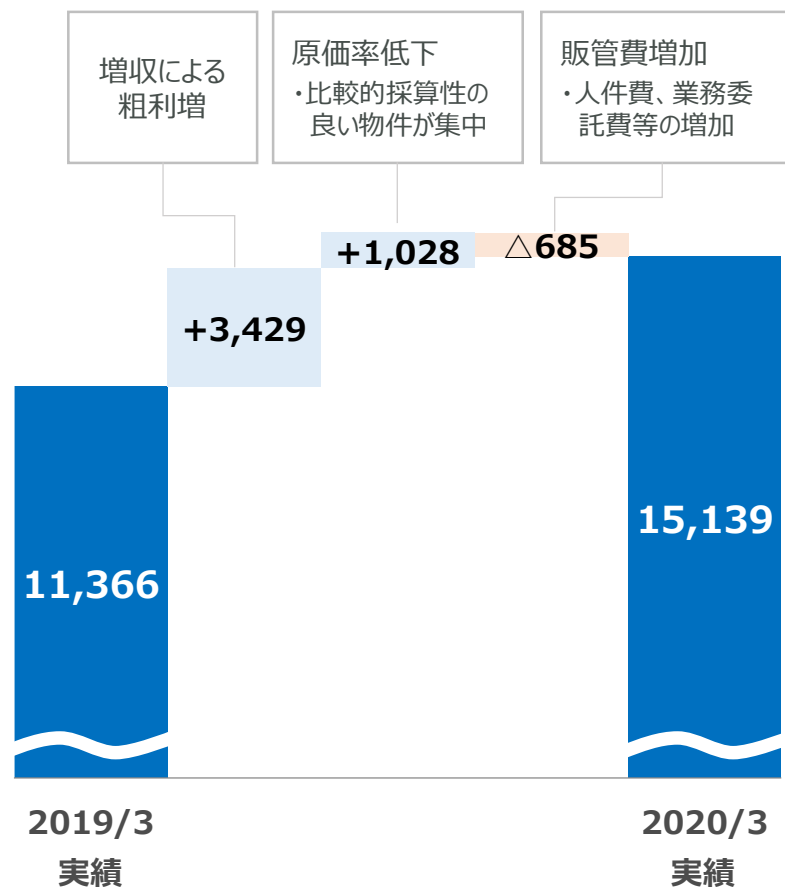
セグメント別売上高・利益

(百万円)

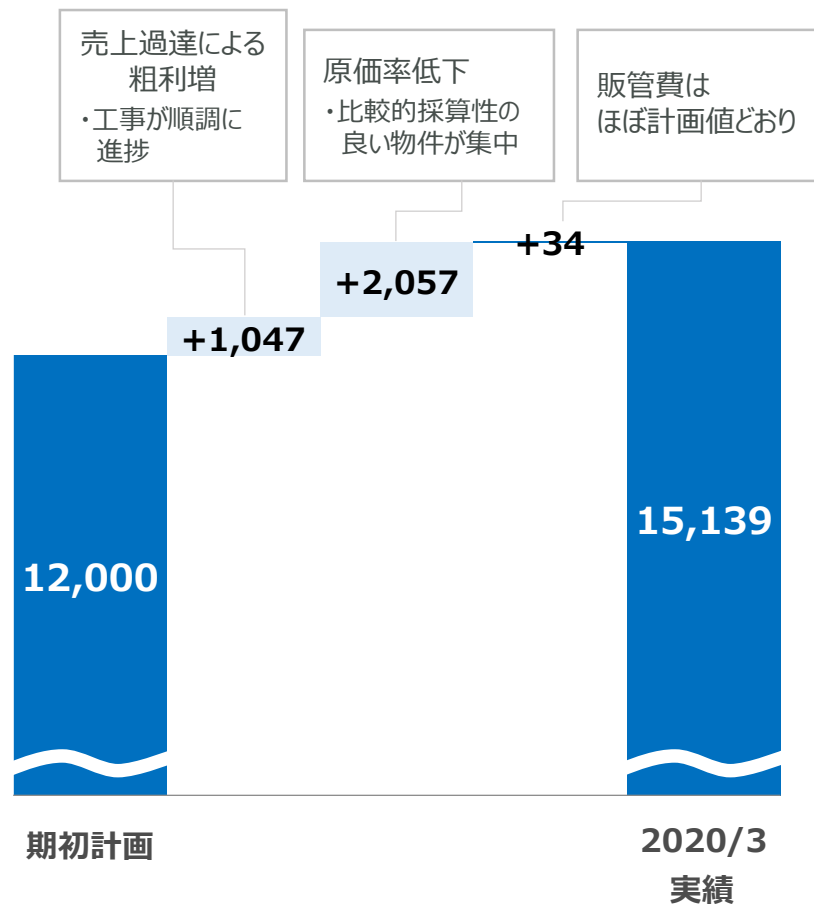
		2019/3	2020/3		前期比	計画比
		実績	計画	実績	増減額	増減額
火災報知設備	売上高	38,379	41,661	41,108	+2,729	△553
	セグメント利益	6,911	7,340	7,672	+760	+331
	(利益率)	(18.0%)	(17.6%)	(18.7%)	(+0.7pt)	(+1.1pt)
消火設備	売上高	37,118	40,637	42,805	+5,687	+2,167
	セグメント利益	5,349	5,874	7,984	+2,634	+2,109
	(利益率)	(14.4%)	(14.5%)	(18.7%)	(+4.3pt)	(+4.2pt)
保守点検等	売上高	25,831	26,230	27,482	+1,651	+1,252
	セグメント利益	5,488	5,375	6,162	+673	+786
	(利益率)	(21.2%)	(20.5%)	(22.4%)	(+1.2pt)	(+1.9pt)
その他	売上高	5,807	5,832	6,272	+464	+439
	セグメント利益	319	389	490	+171	+100
	(利益率)	(5.5%)	(6.7%)	(7.8%)	(+2.3pt)	(+1.1pt)
消去または全社	売上高	△361	△361	△373	△11	△11
	セグメント利益	△6,701	△6,980	△7,168	△467	△188
連結	売上高	106,774	114,000	117,294	+10,519	+3,294
	営業利益	11,366	12,000	15,139	+3,772	+3,139

営業利益増減分析

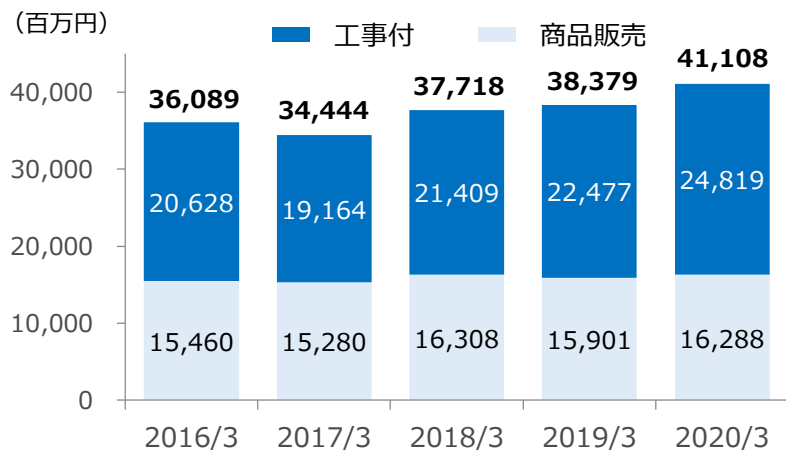
対前期比（百万円）



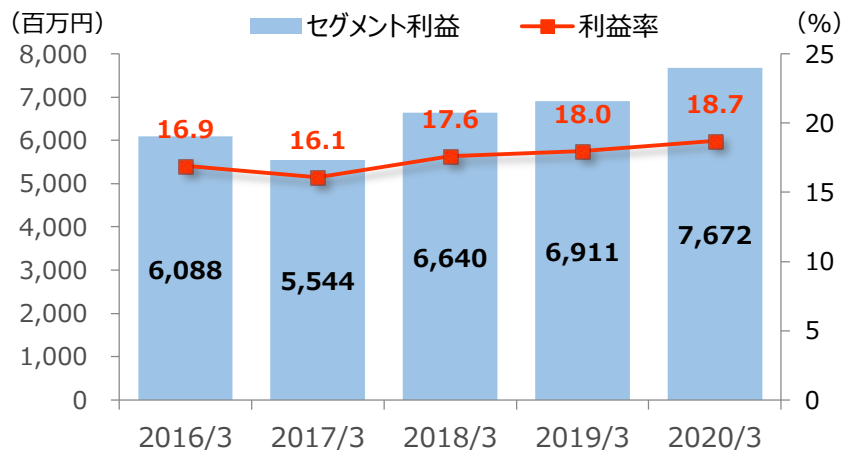
対計画比（百万円）



売上高（消去前）



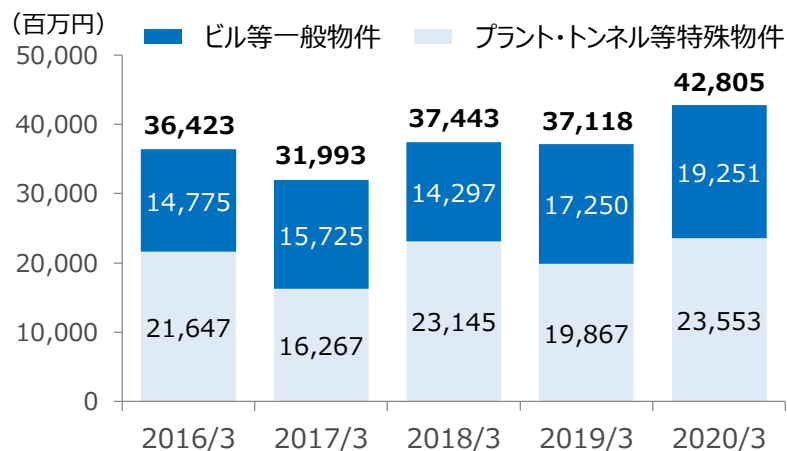
セグメント利益／利益率



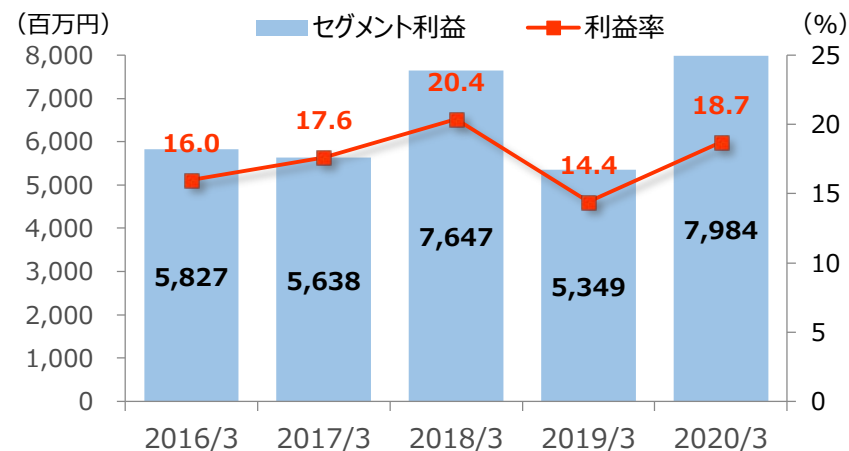
	2019/3	2020/3		前期比 (%)	計画比 (%)
	実績	計画	実績		
受注高	40,467	42,400	38,441	△5.0	△9.3
受注残高	14,303	—	11,728	△18.0	—
売上高	38,379	41,661	41,108	+7.1	△1.3
工事付	22,477	24,311	24,819	+10.4	+2.1
商品販売	15,901	17,350	16,288	+2.4	△6.1
セグメント利益	6,911	7,340	7,672	+11.0	+4.5

- 受注高は、高水準であった前期に比べ減少
市場環境は堅調だが、全体的に計画ほど
伸びなかった
- リニューアル物件を中心に、比較的採算性の
良い物件が集中したことから利益率は上昇
- 売上高・利益とも過去最高

売上高（消去前）



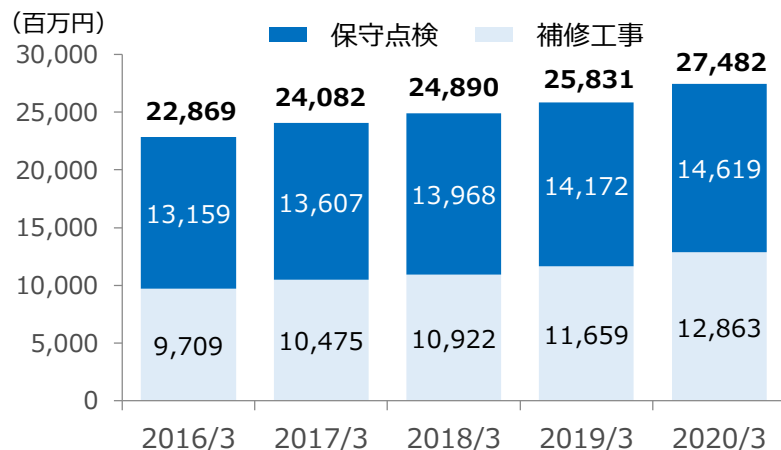
セグメント利益／利益率



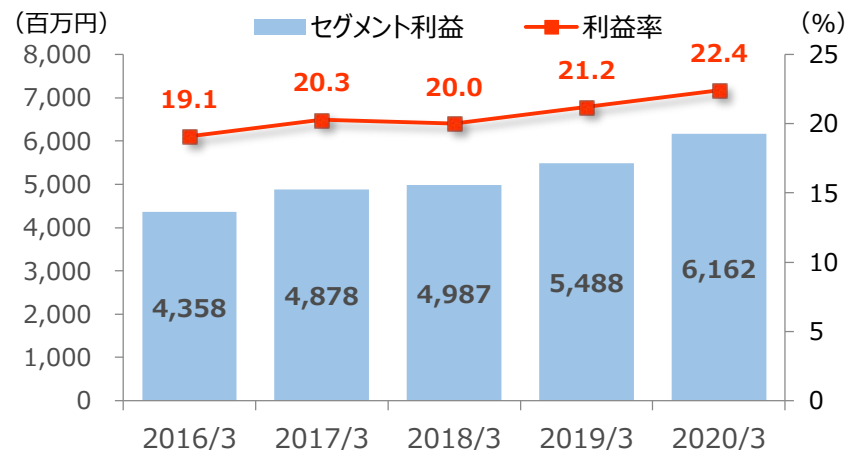
	2019/3	2020/3		前期比 (%)	計画比 (%)
	実績	計画	実績		
受注高	35,398	41,300	40,419	+14.2	△2.1
受注残高	36,439	—	34,133	△6.3	—
売上高	37,118	40,637	42,805	+15.3	+5.3
一般物件	17,250	19,267	19,251	+11.6	△0.1
特殊物件	19,867	21,370	23,553	+18.6	+10.2
セグメント利益	5,349	5,874	7,984	+49.3	+35.9

- 受注高は、特殊物件を中心に積み上げて前期比14%増加
- 売上高は高水準
採算性の低い物件が重なった前期に比べ利益率も改善
- 売上高・利益とも過去最高

売上高（消去前）



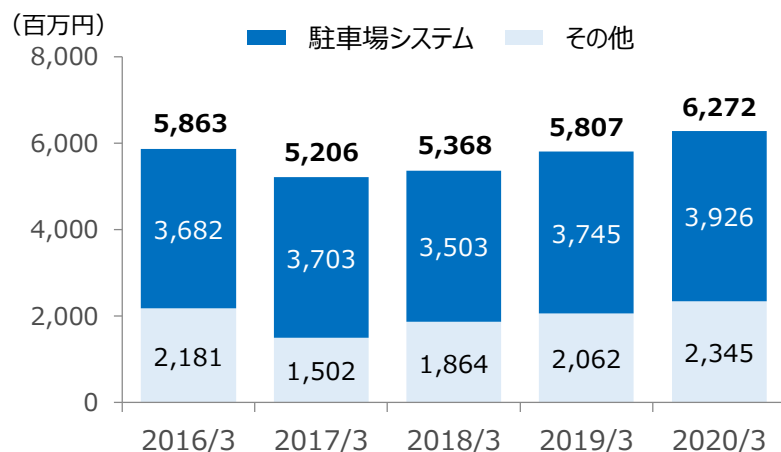
セグメント利益／利益率



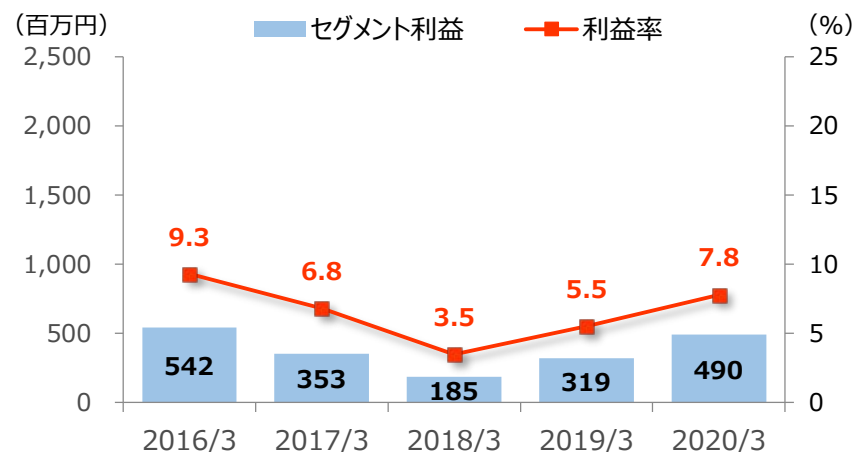
	2019/3	2020/3		前期比 (%)	計画比 (%)
	実績	計画	実績		
受注高	26,277	26,700	26,935	+2.5	+0.9
受注残高	4,571	—	4,024	△12.0	—
売上高	25,831	26,230	27,482	+6.4	+4.8
保守点検	14,172	14,190	14,619	+3.2	+3.0
補修工事	11,659	12,040	12,863	+10.3	+6.8
セグメント利益	5,488	5,375	6,162	+12.3	+14.6

- 引き続き市場環境は堅調
順調に受注高を伸ばすことができた
- リニューアル工事が集中するなどして増収
業務効率化等の取組みにより、
利益率も上昇傾向
- 受注高・売上高・利益とも過去最高

売上高（消去前）



セグメント利益／利益率



	2019/3	2020/3		前期比 (%)	計画比 (%)
	実績	計画	実績		
受注高	5,716	5,600	6,075	+6.3	+8.5
受注残高	742	—	747	+0.6	—
売上高	5,807	5,832	6,272	+8.0	+7.5
駐車場システム	3,745	3,740	3,926	+4.8	+5.0
その他	2,062	2,092	2,345	+13.7	+12.1
セグメント利益	319	389	490	+53.6	+25.7

➤ 受注高・売上高ともに順調に推移

➤ 利益面も厳しい環境ながら改善傾向

Ⅱ. 2021年3月期 連結業績予想

NOHMI

2021年3月期 連結業績予想

(百万円)

	2020/3	2021/3	前期比	
	実績	予想	増減額	増減率
受注高	111,872	105,000	△6,872	△6.1%
売上高	117,294	107,000	△10,294	△8.8%
売上総利益 (利益率)	39,305 (33.5%)	34,400 (32.1%)	△4,905 (△1.4pt)	△12.5% —
販管費	24,165	23,400	△765	△3.2%
営業利益 (利益率)	15,139 (12.9%)	11,000 (10.3%)	△4,139 (△2.6pt)	△27.3% —
経常利益	15,448	11,200	△4,248	△27.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	10,516	7,450	△3,066	△29.2%
EPS (円)	174.41	123.55		
ROE	11.4%	7.7%		

新型コロナウイルスの影響を踏まえ減収減益

事業活動の一部を制限せざるを得ない状況が
6月末まで継続すると仮定して算定

営業利益率は10%以上を維持

上記の前提のなかでも、効果的な営業活動や経費削減により、
中期経営計画の目標数値である営業利益率10%以上は維持

市場動向を注視しながら施策推進

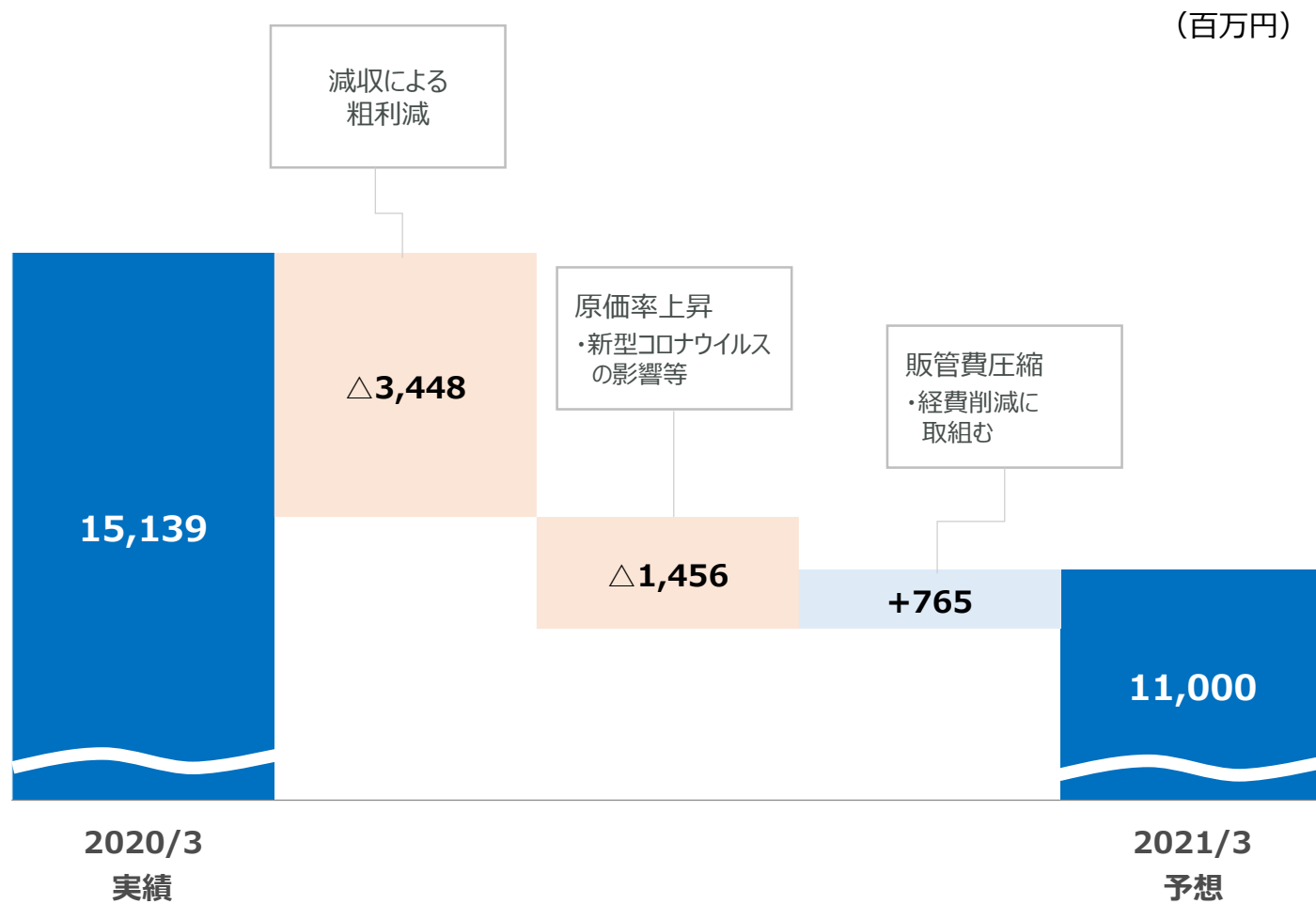
新型コロナウイルスの影響により工事の進捗遅延や受注環境の悪化も
懸念されるが、研究開発や人財への投資など各種施策に取り組む

セグメント別売上高・利益予想

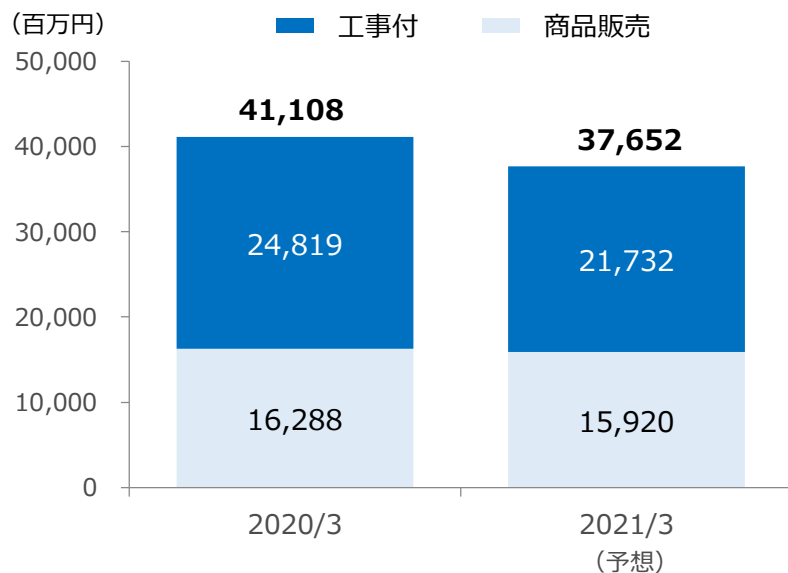
(百万円)

		2020/3	2021/3	前期比	
		実績	予想	増減額	増減率
火災報知設備	売上高	41,108	37,652	△3,455	△8.4%
	セグメント利益	7,672	6,469	△1,202	△15.7%
	(利益率)	(18.7%)	(17.2%)	(△1.5pt)	—
消火設備	売上高	42,805	39,059	△3,745	△8.8%
	セグメント利益	7,984	6,313	△1,670	△20.9%
	(利益率)	(18.7%)	(16.2%)	(△2.5pt)	—
保守点検等	売上高	27,482	25,320	△2,162	△7.9%
	セグメント利益	6,162	4,957	△1,204	△19.5%
	(利益率)	(22.4%)	(19.6%)	(△2.8pt)	—
その他	売上高	6,272	5,341	△930	△14.8%
	セグメント利益	490	297	△192	△39.3%
	(利益率)	(7.8%)	(5.6%)	(△2.3pt)	—
消去または全社	売上高	△373	△373	—	—
	セグメント利益	△7,168	△7,039	+129	—
連結	売上高	117,294	107,000	△10,294	△8.8%
	営業利益	15,139	11,000	△4,139	△27.3%

営業利益予想増減分析

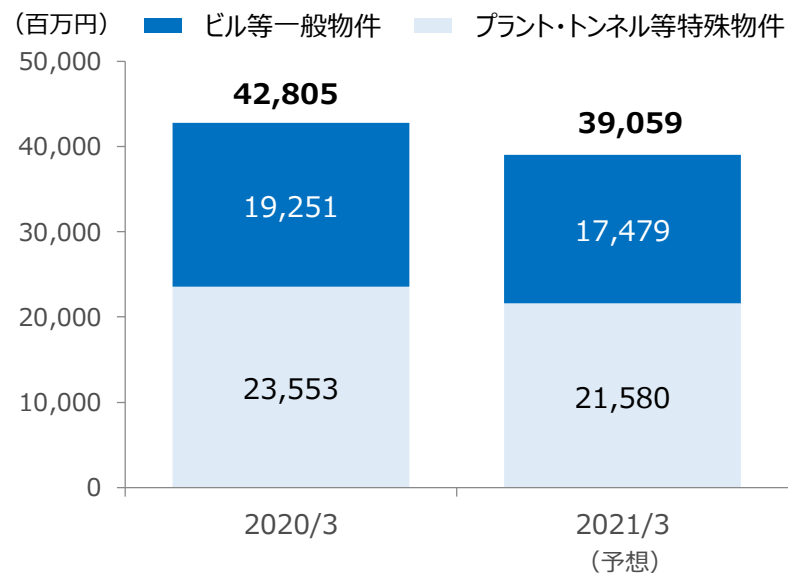


火災報知設備



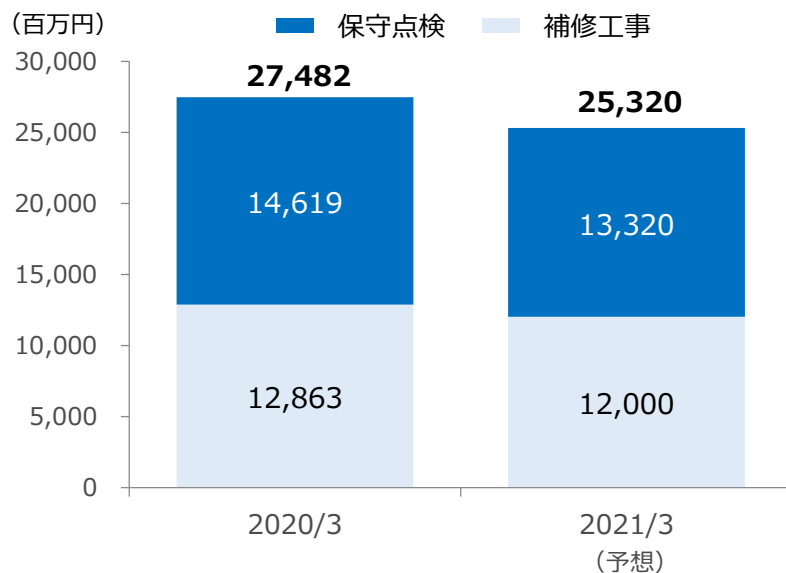
➤ 新型コロナウイルスの影響に対し、商品販売を中心に減収幅の縮小を目指す

消火設備



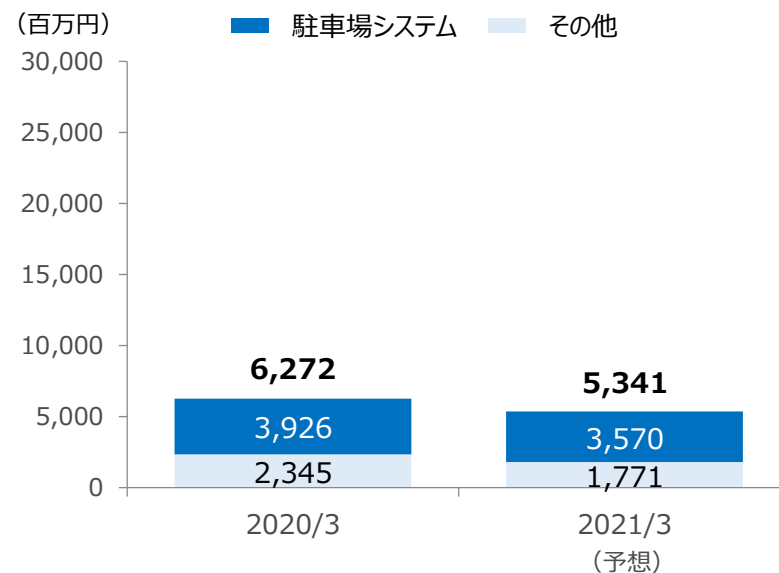
➤ 特殊物件を中心に前期の受注が順調であったことを背景に、引き続き高水準の売上確保を見込む

保守点検等



➤ 先行き不透明な状況ながら、積極的な提案営業活動などにより、着実な売上計上を見込む

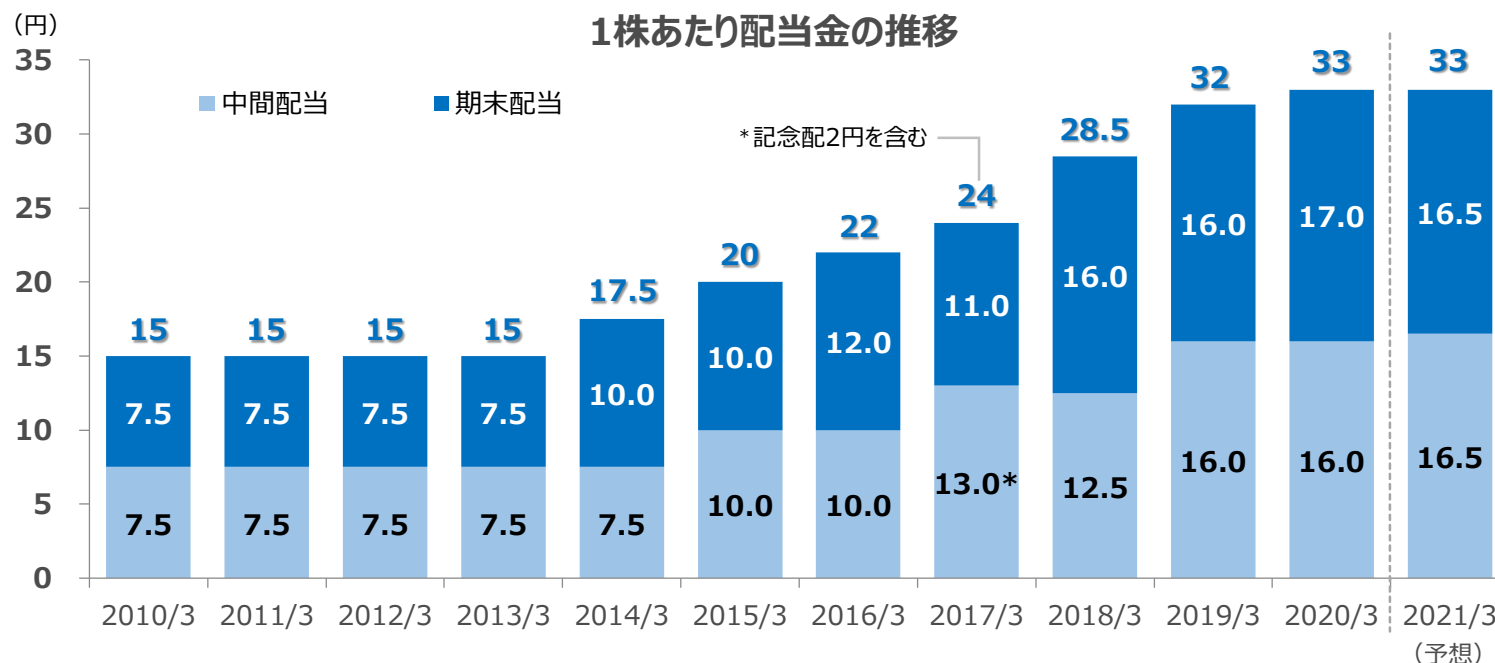
その他



➤ 新型コロナウイルスの影響もあり、全体として減収を見込む

株主還元については、配当額の安定的な推移を重視

1978年以来、特別配当を除き減配をしていない



配当性向	38.8%	48.5%	50.6%	31.4%	21.9%	21.4%	20.0%	20.8%	18.8%	24.7%	18.9%	26.7%
------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

Ⅲ. 中期経営計画『project2021』 (2019年度～2021年度)



当社の存在意義

防災事業のパイオニアとして、世の中の変化を先取りし、
社会の安全に貢献する価値を提供し続ける

外部環境に対応し、より高いステージへ進むためには

『現場力』の強靱化が必要不可欠



「現場力」…現場で発生する課題・問題を全員が当事者意識を持って自律的に発見し、組織力を発揮して解決にあたる力

ビジョン

強靱な「現場力」を礎に飛躍的成長へ

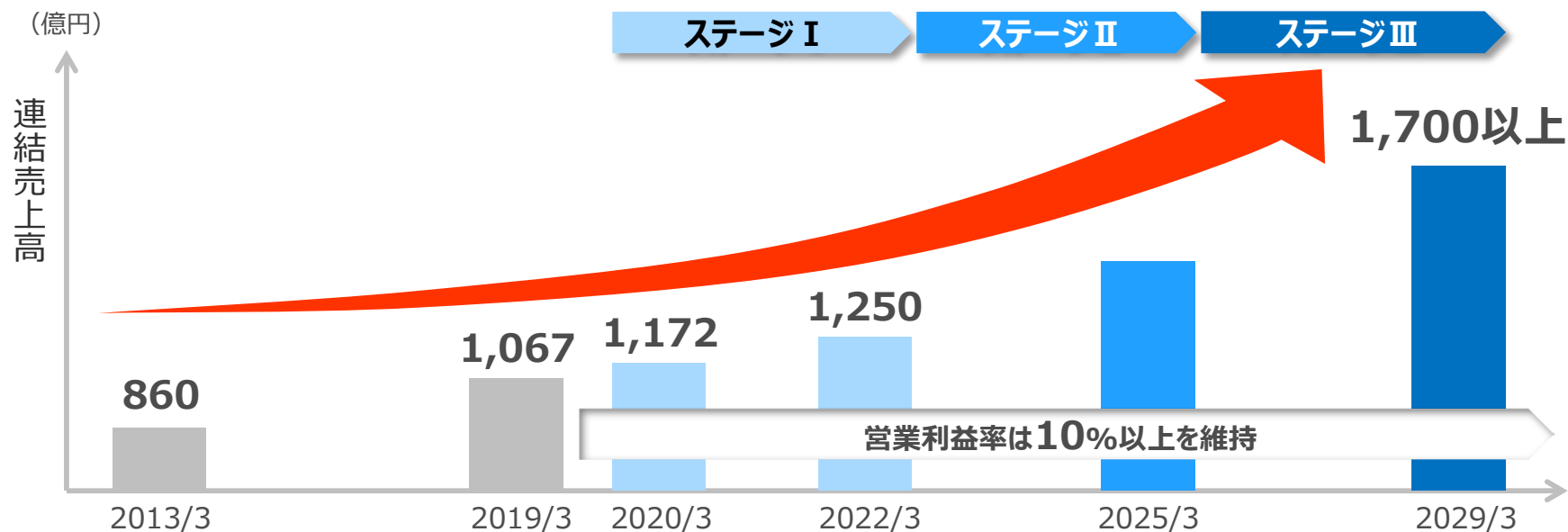
総合防災企業として防災分野のパイオニアであり続ける

【中期経営計画の重点方針】

- ① 人財力の向上
- ② 事業構想力・遂行力 / オペレーションの精度とスピードの向上
- ③ グループ経営の強化

より高いステージに向けた基盤づくり（投資、新たな取り組み）

連結売上高・営業利益率



研究開発投資

- ・社内外の関係機関と連携し、要素・技術を導入
(データ・テクノロジー、AI、IoT…)
 - ・当社コア技術の社内育成を推進
- 次世代新商品開発へ

試験研究費

22億円

30億円

50億円

対連結
売上高比率

2.1%

2.4%

3.0%

1 人財力の向上

2 基幹事業の礎の強化

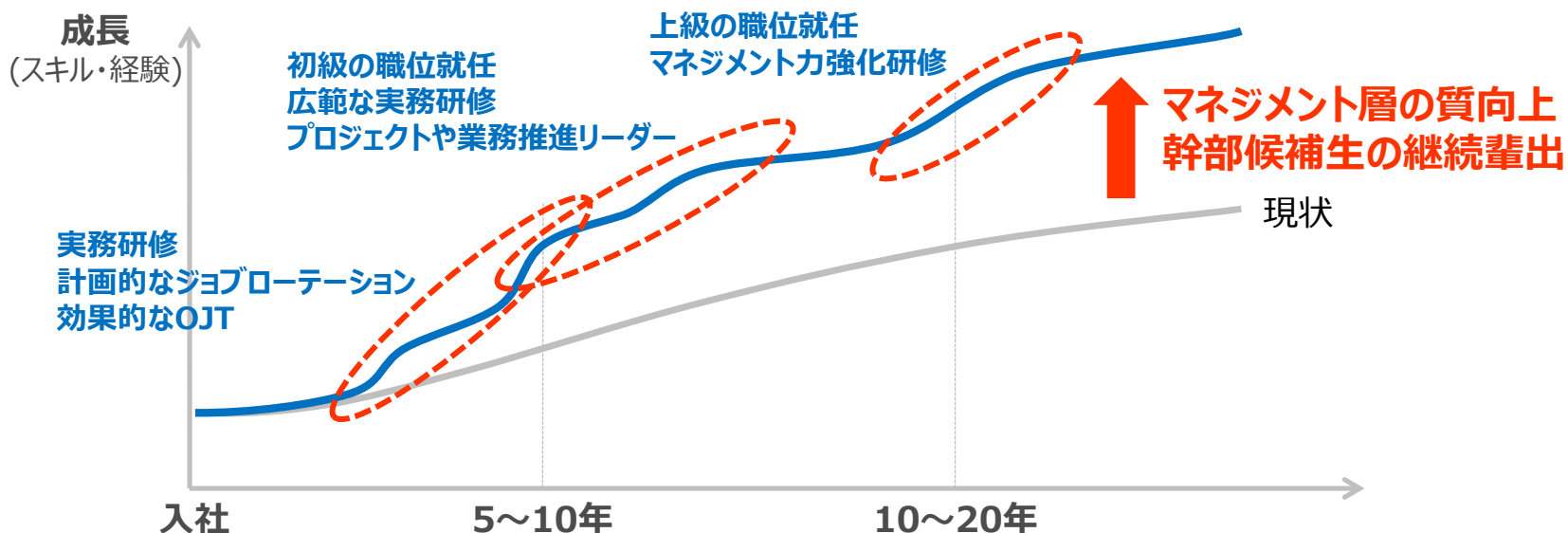
文化財防災事業の事例

3 事業構想力・遂行力／オペレーションの精度とスピードの向上

4 経営体制の強化

人財力の向上

- 効果的なOJTと計画的なローテーションの実施
- トレーニング設備の整備などによる実務研修の強化とマネジメント力強化研修の実施



今後

より一層「選ばれる会社」「人が育つ会社」とするための施策を推進

成長につながる異動や
配置換えの更なる推進

「クロス・トレーニング
制度*」の活用促進

新たな研修の実施
(マネジメント層を対象)

等

* 一定期間、異なる部門・部署で業務経験を積む制度

基幹事業の礎を強化し、新規事業へチャレンジ

※新規事業の対象は、既存事業に取り組む中で、お客様ニーズが派生する可能性があると考える周辺領域



新規事業検討会の実施

今後 プロジェクト/WGのテーマを選定して継続検討

外部教育機関の活用

来期 新たなソリューション提供を目指し、派遣人員を増員

能美Gが直接・間接的に関係する市場規模は大きい

※ 各目標の市場規模は2017年の試算結果



出所：「SDGsビジネスの可能性とルール形成」デロイトトーマツ コンサルティング合同会社 2017年12月
(https://webdesk.jsa.or.jp/pdf/dev/md_3079.pdf) より当社作成

国が注力する事業の市場規模はさらに拡大していく



- 社会の根幹である防災に関する課題は多い
- 国主導の研究会などを注視 ※消防庁以外にも目を向ける

出所：首相官邸「第1回ムーンショット型研究開発制度に係るビジナリー会議」＜2019.3.29＞をもとに当社作成

文化財防災事業のこれから

防火対策5か年計画から想定されるニーズの増加

(2020年度～2024年度)

文化財の防火対策に関する国の動き (ノートルダム大聖堂、首里城跡での大規模火災を受けて)

【文化庁】 国宝・重要文化財（建造物）の防火対策ガイドラインを公表、改訂

【文部科学大臣】 世界遺産・国宝等における防火対策5か年計画を決定

重点整備 対象

- ・世界遺産および国宝（建造物）
- ・国宝・重要文化財（美術工芸品）を保管する博物館等（老朽化・不具合等が確認されたもの）

物件数急増への対応策

司令塔となる部署の新設 … 物件情報を一元管理し、グループ全体の“調整役”を果たす

提案依頼（現場調査）件数の増加

設計／見積依頼件数の増加

物件情報の一元管理

提案活動の体制構築

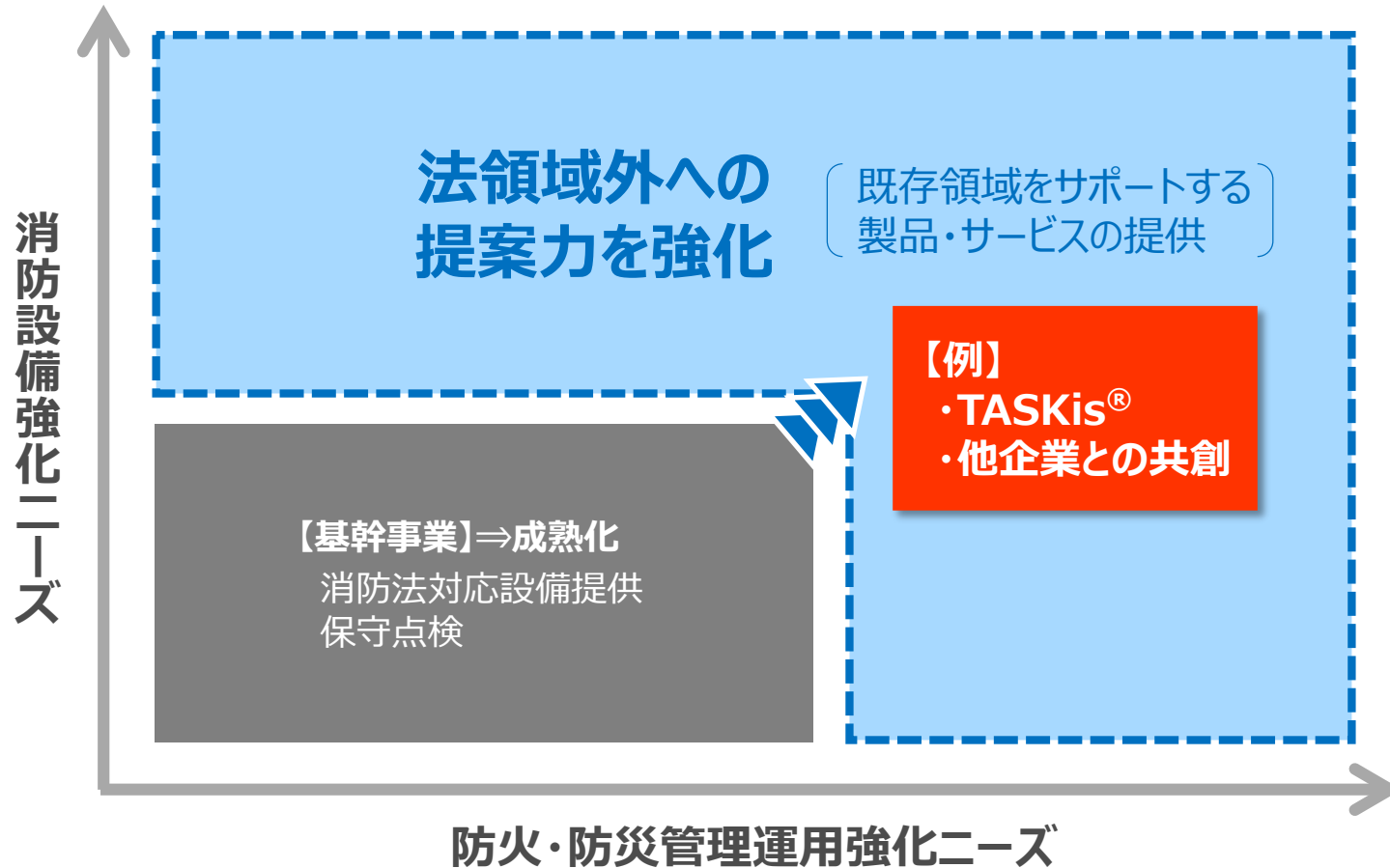
組織横断的に
協力を仰ぎ、
対応力を強化
(スピードアップ)

今後

①提案内容の拡充

②受注（施工）物件の増加に向けた対応 … 施工担当者の確保、各要員の育成・増強 等

事業領域の拡大

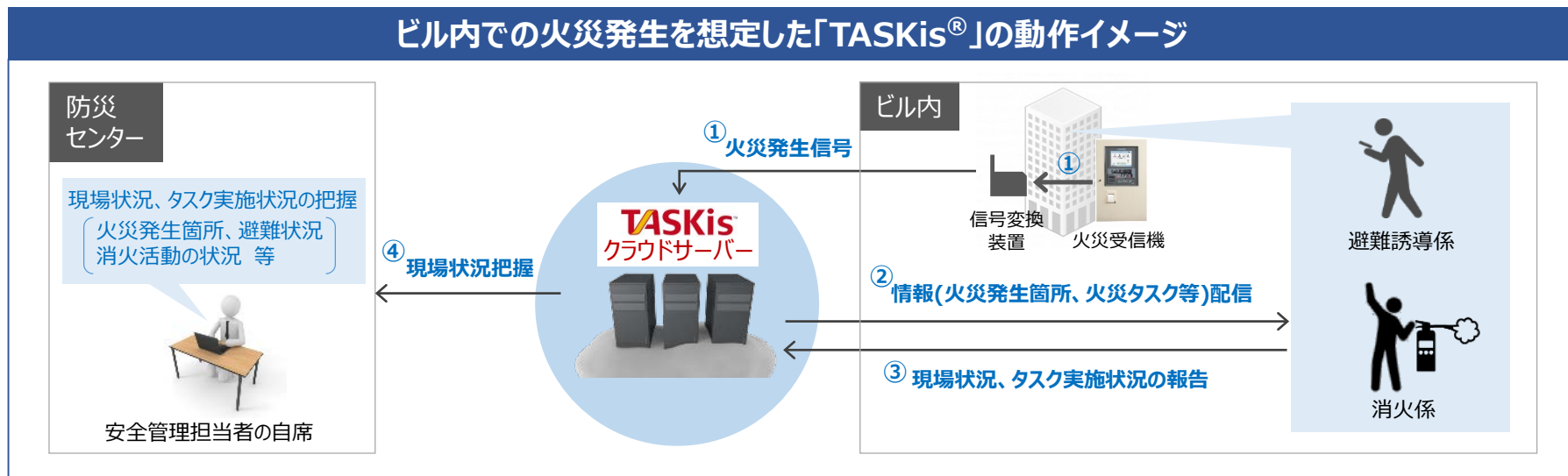


新たな価値の提供による提案力強化

クラウド型防災支援ソフト『TASKis®』の主な機能

- 火災・地震など、BCPに係る非常時の行動指示情報(タスク)を、関係者のスマートフォンへ通知
- 関係者からのタスク実施報告を、管理者のパソコン画面へリアルタイムに表示

ビル内での火災発生を想定した「TASKis®」の動作イメージ

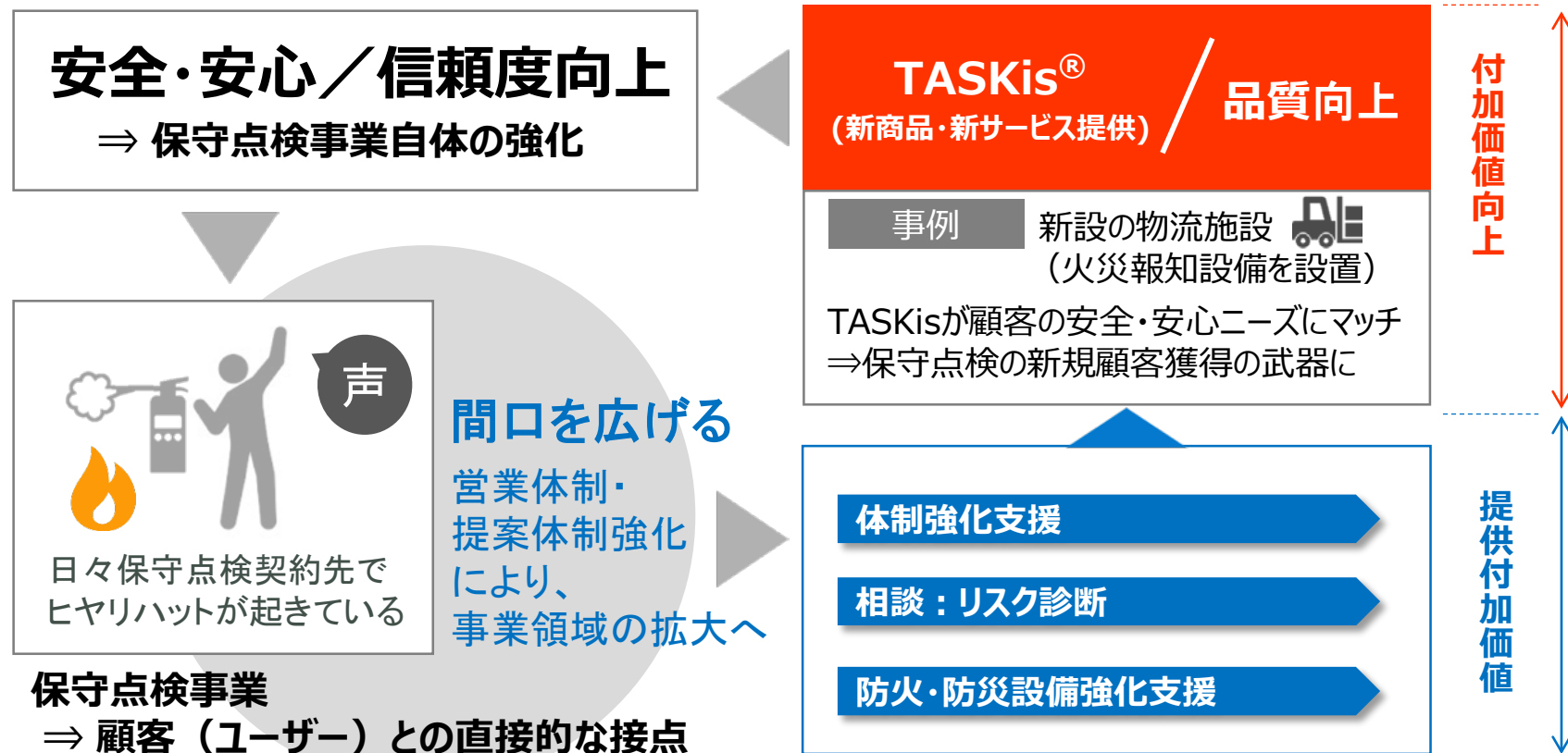


ソフト（体制整備）の面で新たな価値を提供

変化するお客様ニーズ … 「検知・検出」から「予防」へ

事業領域の拡大への取り組み事例 ～TASKis[®]～

『TASKis[®]』による新たな安全・安心ニーズの取り込み



海外事業の強化（1）

アフターサービスまでを含めた付加価値の高いサービスの提供

中国

販売ターゲット拡大
製造戦略の見直し

インド

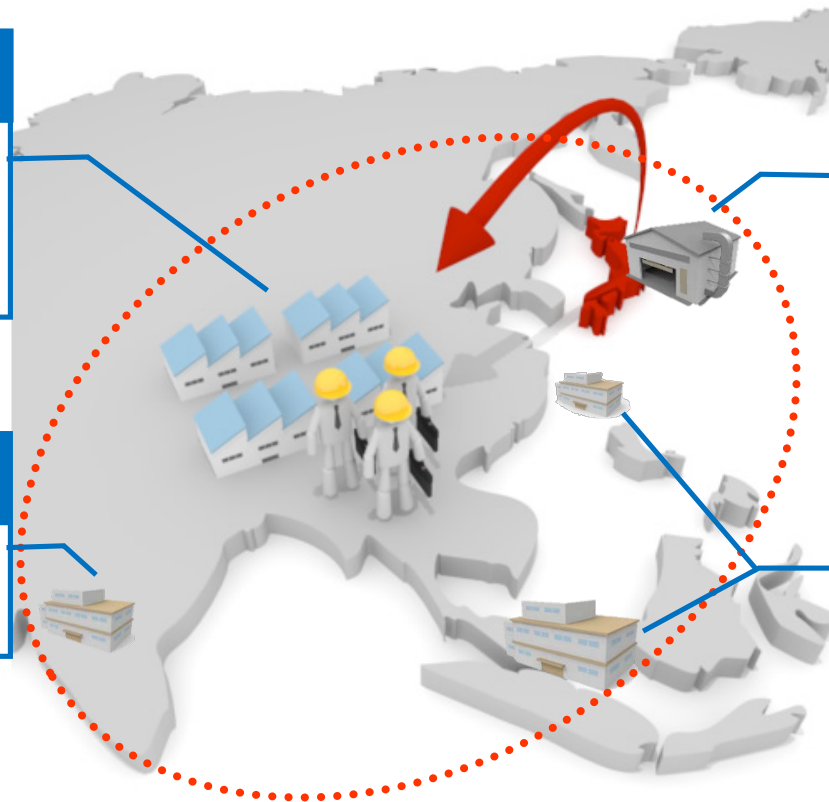
事業戦略の再構築

日本

バックオフィス機能強化
製造バックアップ機能強化
グローバル人財の確保
M&A、他社との連携検討

東南アジア・台湾

営業拠点施策
代理店施策
製品ラインナップの見直し



海外事業の強化（2）

ここまでの進捗と今後の注力施策

【注力地域】

中国

- 引き続き、代理店網の拡充を図る

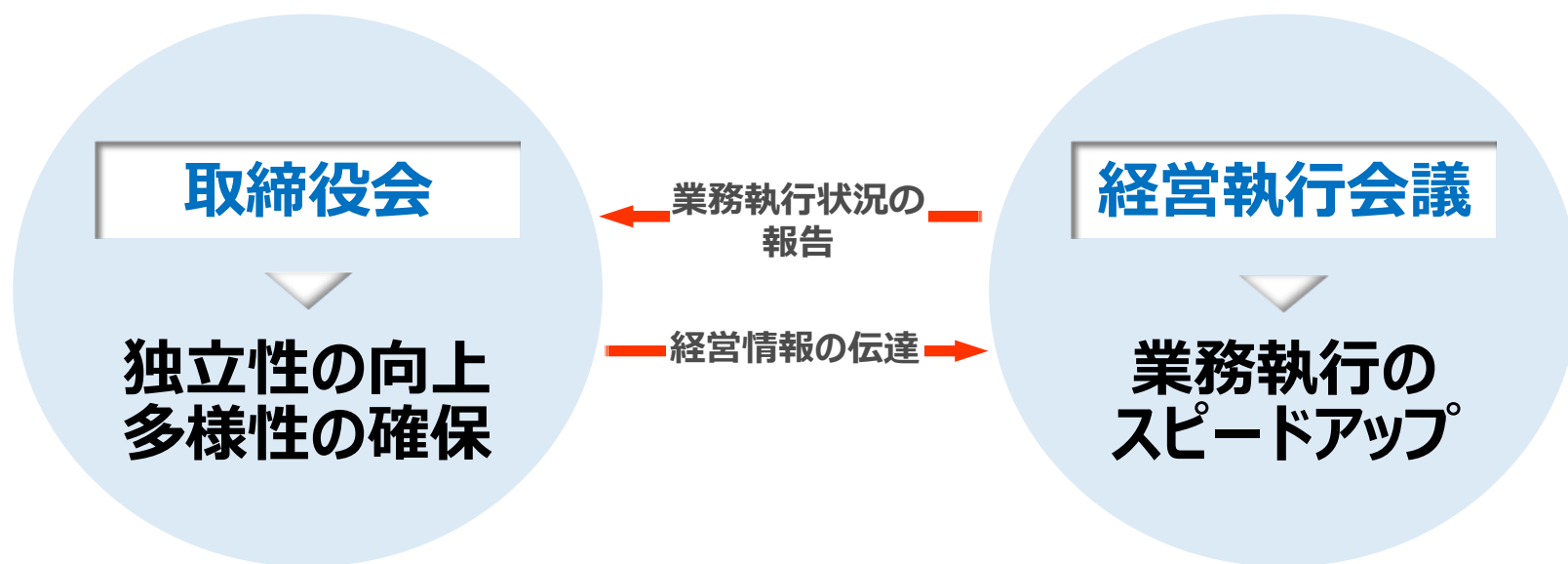
東南アジア

- 特約店の新設（3店）⇒ 今後も代理店網の拡充継続
- 上海工場への生産移管の推進
⇒ 引き続き、国内・海外の生産拠点の連携強化
- 中規模建物向け火災受信機の新製品投入
＜Integlex Multicrest fire alarm system N765＞
（当社従来品より使いやすさや施工性が向上）
⇒ 今後、拡販を図る

Integlex Multicrest™
fire alarm system **N765**



経営体制の改定（コーポレート・ガバナンスの強化）



- 社外取締役比率を 1/3 以上に高める
⇒ 監督機能の向上
- ジェンダー・国際性等の観点取り入れ

- 執行役員制度を導入
⇒ 6月から導入予定
- 取締役会への付議基準を見直し

IV. ご参考

NOHMI

～ 防災システムを一貫体制で提供する総合防災企業 ～

商 号

能美防災株式会社

本店所在地

東京都千代田区九段南四丁目7番3号

設 立

1944 [昭和19]年 5月 5日 ※創立は1916年 [大正5年] 12月

代 表 者

代表取締役社長 伊藤 龍典

資 本 金

13,302百万円

従 業 員 数

2,524名 <連結>

※ともに2020年3月末

事 業 内 容

防災に関する受託実験・企画・提案
各種防災設備、システムの企画、開発、設計、施工、保守
上記機器の設計、製造、販売
駐車場車路管制システムの設計、製造、施工、販売及び保守

創立100周年

株式上場

創立

- 2019 クラウド型防災支援ソフト「TASKis」を発売
- 2018 中・大規模建物向け防災システム「R-26C」を販売開始
- 2017 妻沼東事業所に、展示施設「能美テクノロジーメヌマ」を開設、メヌマ工場を拡大
- 2016 消火剤噴霧自動消火システム「SPlashα」を販売開始
- 2014 「リング型表示灯付発信機」がグッドデザイン金賞を受賞
- 2013 画像処理煙検知システムを販売開始
- 2010 三郷市に研究開発センターを開設
- 2009 火災予兆検知システム「PROTECVIEW」を販売開始
- 2006 セコム株式会社を引受先とする第三者割当増資を実施
- 2004 住宅用火災警報器「まもるくん10」を販売開始
- 2002 自動試験機能付P型自動火災報知システム「進P」を販売開始
- 1995 中国に合併会社「北京能美西科姆消防設備有限公司」を設立
- 1991 東京証券取引所市場第一部に指定替え
- 1987 青函トンネルに防災設備、瀬戸大橋に消火設備を設置
- 1974 LNG基地防災システムを開発
- 1968 霞が関ビルディングに防災設備を設置 <超高層ビルとして国内初>
- 1962 名神高速道路の梶原・天王山トンネルに防災設備を設置 <高速道路トンネルとして国内初>
東京証券取引所市場第二部に上場
- 1936 皇居に火災報知設備を設置
- 1933 三十三間堂に火災報知設備を設置 <国宝として国内初>
- 1924 前年の関東大震災を契機に自動火災報知機による防災事業開始
- 1916 能美輝一、能美商会を創立



<R-26C>



<能美テクノロジーメヌマ>



<メヌマ工場>



<研究開発センター(三郷)>



<リング型表示灯付発信機>



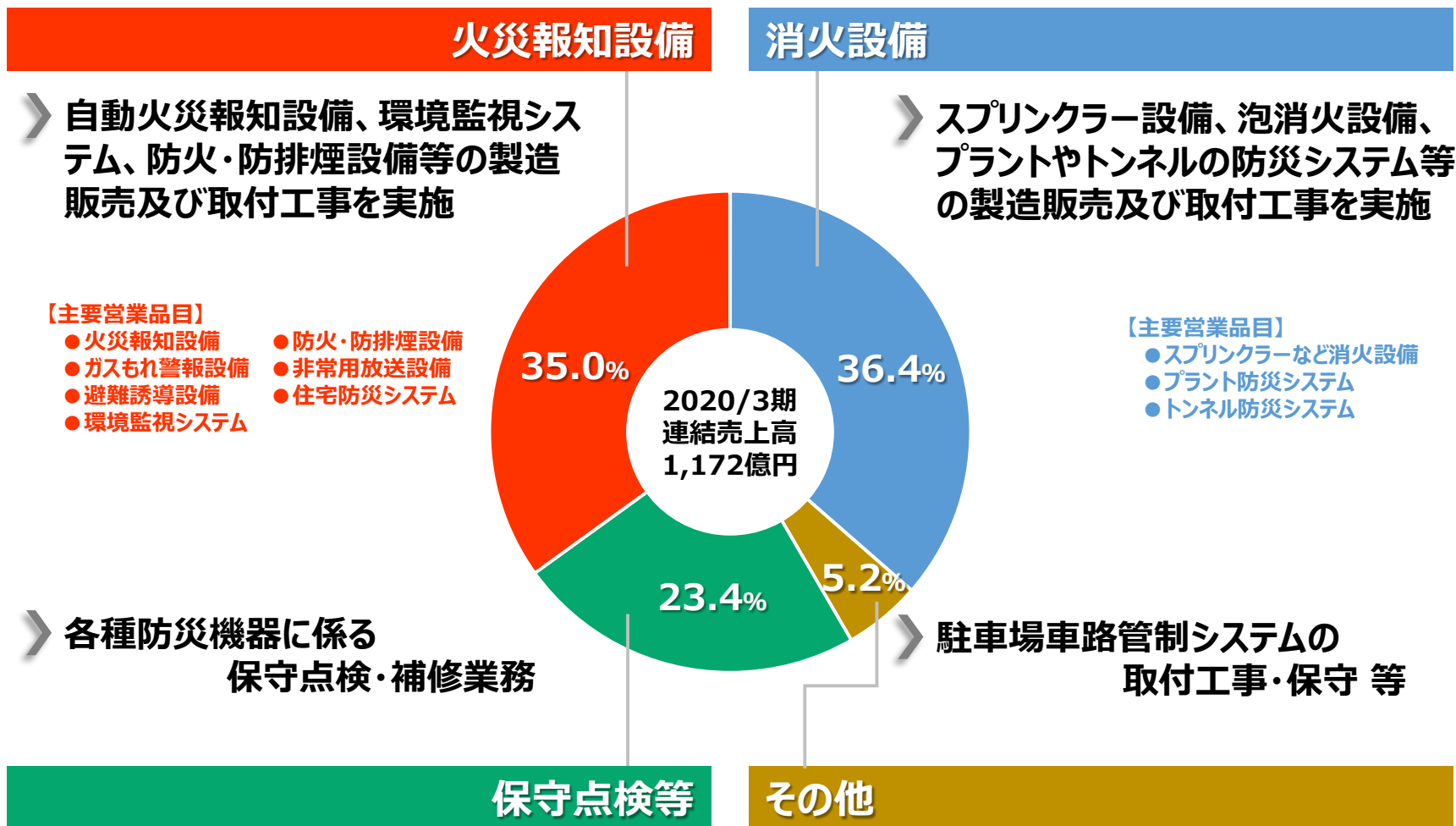
<PROTECVIEW>



<能美輝一>



<宮中奥御殿(皇居)完工記念>



総合防災力

- 研究・開発 ⇒ 製造 ⇒ 営業・設計 ⇒ 施工 ⇒ メンテナンスまで
一貫した責任体制でのサービスを全国に提供可能

一貫した責任体制

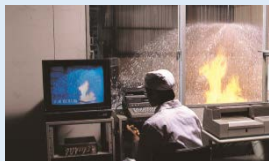
研究・開発

製 造

営業・設計

施 工

メンテナンス



- 幅広い品揃え**により、様々な施設、
防災ニーズに対応が可能



長い社歴の中で強みが磨かれた5つの要素

- ① 総合防災に関する開発、設計、施工等の『技術力』
- ② 豊富な実験により蓄積された火災に関する『ノウハウ』
- ③ 細かな工程管理や対応等、ハイレベルな『施工力』
- ④ 実績とともに築かれた関係各所からの『信頼』
- ⑤ 日本全国に敷かれた充実した『代理店網』

※あらゆる火災発生状況を想定したシミュレーション

ラック式倉庫
火災実験



自動車塗装ブース
火災実験



高発泡消火実験



煙の流動実験



クリーンルームでの
発煙実験



本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、能美防災およびグループ各社が現時点で入手可能な情報に基づいており、この中には潜在的なリスクや不確定要素も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向等により、本資料における業績見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。